



インターネットの登場・普及とコミュニケーションの変化

第1部 特集 進化するデジタル経済とその先にある Society 5.0

第1節 デジタル経済史としての平成時代を振り返る

(イ) インターネットの普及開始

次に、インターネットが普及し始めた1995年から2000年頃について概観する。
様々な制約があった普及開始当初のインターネット

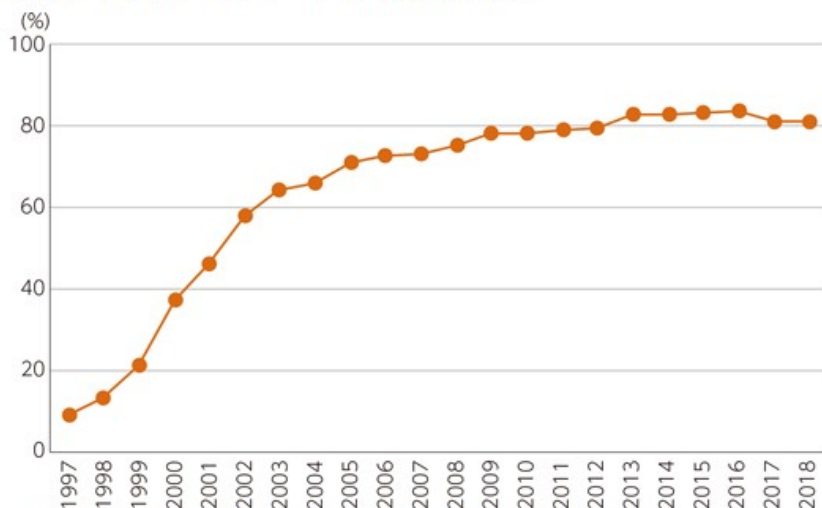
1995年にMicrosoftが発売したWindows95は、インターネットが一般に普及する大きな契機となったといわれている。Windows95は初期状態でTCP/IPプロトコルを搭載しており、プリインストールしたパソコンであれば、ダイヤルアップ接続機能やWebブラウザも付属していた。インターネットが体験できる機能は当時まだ珍しく、多くのユーザーを獲得した27。

1990年代後半におけるインターネット上での交流は、主に個人等が作成する「ホームページ」や「BBS（掲示板）」上で行われており、数多くのサイトが開設された。例えば1997年には無料レンタル掲示板「ティーカップ」が、1999年には匿名掲示板「2ちゃんねる」が開設されている。特に「2ちゃんねる」は、掲示板上で起こった様々な出来事がある他のメディアで取り上げられたことで広く知られるようになり、利用者が増加したとされる。

当時、通信環境は電話回線によるダイヤルアップ接続が主流であり、通信速度が十分でないこと、また、従量課金型であったことから、画像等のデータ容量の大きなコンテンツを扱うことは敬遠され、文字情報でのやりとりが一般的であった。1995年にNTT東日本・西日本（以下「NTT東西」という。）が深夜時間帯（23時～翌日8時）に限り、指定した電話番号に対して定額料金を適用する「テレホーダイ」サービスを開始した。当時まだ隆盛であったパソコン通信や普及の始まったインターネットにおいて、通信料を気にせず利用できることから利用者が殺到し、この時間帯はインターネットに繋がりにくい状況となるという社会現象も生まれた。

ダイヤルアップ接続では電話回線の中で、通話で使用するものと同じ帯域を使用するためにインターネット接続中の通話は行えず、また通話中のインターネット接続も行えなかった。一方で1999年より商用での提供が開始されたADSLは、同じ電話回線の中でも通話とは別の帯域をデータ通信に使用するため、通話とインターネット接続を同時に行うことが可能となり、定額料金・常時接続という形で提供されたため、ユーザーの利便性は向上し、インターネットの普及につながった。（図表1-1-1-16）

図表1-1-1-16 インターネット利用率の推移



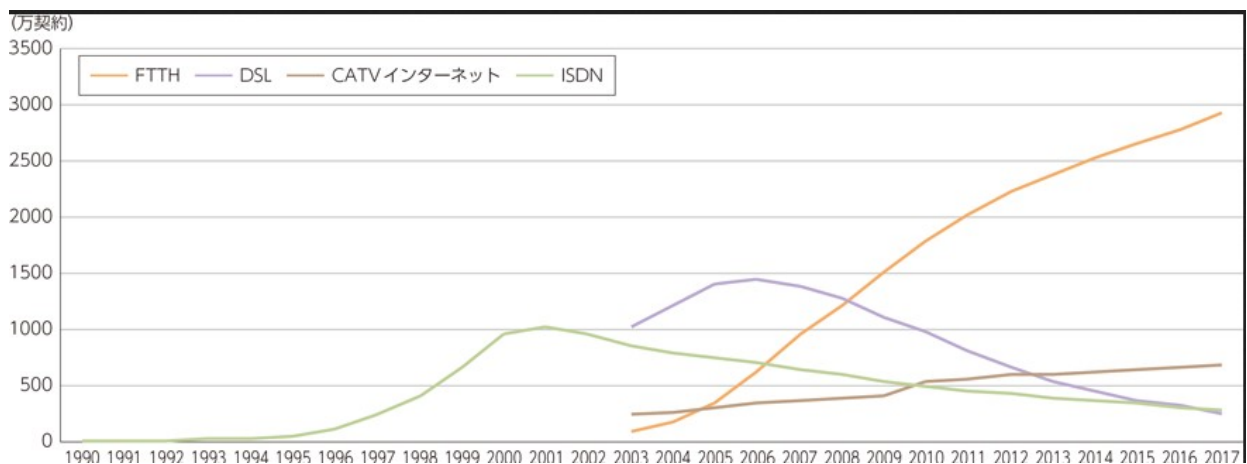
(出典)総務省「通信利用動向調査」各年版を基に作成

(ウ) 定額常時接続の普及と「Web2.0」時代の到来

続いて、インターネットが急速に普及した2001年から2010年頃について概観する。

ルール整備が事業者間の競争を促進し、高速・定額料金・常時接続のブロードバンドが普及

前述のようなADSLの可能性が認識されていた中で、郵政省（現総務省）は、様々な事業者がADSLサービスを円滑に提供することを可能とするルールの整備を2000年に行った。具体的には、事業者がNTT東西の既存の電話回線を借りる形でサービスを提供する場合において、NTT東西に支払う料金やその他の条件等に関するルールであった28。このようなルール整備を背景として、2001年に当時の料金水準を大きく下回る低廉な料金でのADSLサービス「Yahoo!BB」が開始されたことをはじめ、様々な事業者間の競争により料金の低廉化と高速化が進み、ADSLサービスの契約数が増加していった。これにより、我が国のインターネットは、高速・定額料金・常時接続というブロードバンドサービスとして、広く普及することとなった。また、高速化の競争の中で、光ファイバーを活用するより高速のFTTHサービスも普及が進み、現在の固定系ブロードバンドサービスの主流となっている。（図表1-1-1-17）



図表1-1-1-17 固定系ブロードバンドサービス等の契約数推移